

第10回世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会

日 時：令和5年11月16日（木）午後6時30分～午後8時00分

場 所：区役所第一庁舎「庁議室」

出席者：委員（10名）

【学識経験者】近藤委員（委員長）、芳地委員

【総合型地域スポーツ・文化クラブ代表】岸田委員

【地域団体関係者】宮幸委員

【区立中学校教員】加藤委員、大塚委員

【世田谷区スポーツ振興財団事務局長】浅野委員

【区職員】大澤委員、渡邊委員、小泉委員

事務局（5名）

- 1 開 会
- 2 会議録の確認
- 3 全生徒等対象アンケート集計結果について
- 4 来年度以降の取組みについて
- 5 その他
- 6 閉会

午後 6 時30分開会

○委員長 それでは、定刻となりましたので、第10回世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会を開催させていただきたいと思いをします。

本日、欠席者が多いのですが、細越副委員長、栄委員、松浦委員、宮内委員、志賀委員が欠席となっております。

それでは、本日の次第に従って早速進めたいと思いをします。

まず、次第の2でございます。会議録の確認でございます。委員の席上に第9回の会議録の案がございます。各委員の皆様には事前に既に送付しているということから、また何か追加で訂正がございましたら、この場でお受けしたいと思いをしますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

では、第9回の会議録については、こちらの案のとおりとさせていただきたいと思いをします。また何か字句修正等がございましたら、最後のほうで御発言いただければと思いをしております。

では、次にいきたいと思いをします。ここからが次第の3でございます。保護者も含めて全生徒等を対象としたアンケート集計結果について、事務局より説明をお願いします。

○事務局 資料として、まず次第がついているクリップ留めしてある資料の中に、資料1としてアンケートの集計速報版をお配りしております。

今回のアンケートは全生徒を対象にしたもの、それから保護者を対象にしたもの、全教員を対象にしたものの3種類でございます。

では、説明を始めたいと思いをします。

表紙に実施概要を書かせていただいております。令和5年10月31日から11月12日ということでアンケートに御協力いただきました。回答数としましては、全ての生徒を対象にしたものが生徒1万1800人中65%の回答率で7644件、保護者につきましては2650件、それから教員を対象にしたものについては全ての教員764人のうち48.7%の御回答いただいて372件となっております。

それから、質問の中に完全に選択肢と合わせて、完全に自由記載だけで質問しているものがございます。これについては数千件単位で記載をいただいているので、今回につきましては集計中ということで、記載されていない質問がございます。それは御承知おきください。

では、中を少し御一緒に見ていきたいと思いをします。まず資料1をおめくりいただいて、

1 ページから生徒を対象のアンケートです。

まず、何年生ですかという質問です。質問 1 です。これは 3 学年がそれぞれ 3 分の 1 ずつ回答いただいています。

質問 2 です。どのような部活動に所属していますかということで、運動系の部活動が 59.6%、文化系が 26%、運動と文化の掛け持ちが 2.4%となっています。

次のページを御覧ください。質問 3 で今の部としての活動に満足をしていますかという質問です。満足しているが 58%、どちらかと言えば満足しているが 29.7%、やや不満、不満がそれぞれ 9.3%、3%となっています。

質問 4 ですけれども、質問 3 で満足していると記載した理由を教えてくださいということで、お配りした資料では集計中となっていますが、ここに記載いただいた生徒の数 5910 人の方にコメントをいただいています。資料にはございませんけれども、理由で「楽しい」という言葉が入った回答をしてくださった方が 34%、言い方がちょっと違って「楽しく」とか、そういう違う言い方をしている方はまた別におりますので、楽しいからという理由を書かれている方がとても多かったです。あと、友達とか先輩というワードがすごく多く記載されていました。

やや不満のほうのコメントについても、質問 5 なんですけれども、集計中ですが、ここを御回答いただいた方は 823 人いらっしゃいました。

次ですが、質問 6 です。地域移行するときに優先してほしいことを 3 つまでという質問です。まず一番多いのが b です。「平日のうち週 2 日以上を休みにするなど、活動の負担がかかりすぎない」を選んだ方が 15.8%、2 番目が d、「気軽に参加できるような楽しむことを中心とした活動」14.7%、3 番目が h です。「公式の大会などに今までどおり参加できる」が 12.2%でした。

次です。ページをめくっていただいて、質問 7 です。学校以外で部活動を行うとき、移動手段として、自転車を使うことについての質問で「各家庭の判断での自転車利用を認めてほしい」と回答した方が 89.3%でした。

質問 8 です。「学校で主に平日に行っている部活動とは別に、土・日曜日などに地域で行う活動があったら、参加してみたいと思いますか」という質問に、はいが 42.3%、いいえが 57.7%でした。

質問 9 です。「実在する部活動かどうかを問わず、中学生の間にやってみたい部活動があれば 1 つあげてください」ということで、これは任意の記述でしたので、実際はまだ集計

中ですが、フォームズというシステムを使って集計を行っているので、このページの真ん中に出ている図なんですけれども、回答が多いものが大きい文字で表示されるという仕組みがありまして、この質問だけは、この図を転用しています。ダンスという字が一番大きいんですけれども、全ての回答数4344件のうち、約14%がダンスと回答しています。599人だそうです。弓道が全体の約5%、これも非常に多い割合で205人が回答しています。

それから、記載のあった部活動を下に書き出しています。全部ではないですけれども、競技かるた部、チアリーディング部、軽音楽部、空手部、ラクロス部、自転車部、ゴルフ部、天文部、鉄道研究部、登山部、ジャグリング部などが出ておりました。これが特に目立ったということでもないですけれども、どこの学校にもないようなものを比較的選んでおります。

質問10については完全な自由記載なので、集計中とさせていただきます。

ここまでが生徒の方の回答です。

保護者の質問1ですけれども、学年については、ちょっと中学3年生が少なめですけれども、大体3分の1ずつとなっています。

質問2で、お子さんの部活動の所属です。運動系の部活動が60.9%、文化系が26.3%、運動系と文化系の掛け持ちが2.5%となっています。

次のページで質問3です。お子様の部活動以外の地域やクラブチーム等の活動、習い事、学習塾を除くという形ですけれども、質問しています。参加しているが38.3%、していないが61.7%です。

次のページですが、質問4で、この活動に1か月あたりに支払っている参加費用について伺っています。1位がiの1か月あたり1万1円以上、2番目がhの7001円から1万円、3番目がgの5001円から7000円となっています。

質問5です。これは世田谷区教育委員会でも、国や都が進めている地域移行について検討していることを知っていますかという質問で、知っているという方が69.8%、知らなかったが30.2%となっています。

次の質問6です。次のページです。質問が地域移行をする際に優先してほしいことを3つまで選んでくださいという質問で、一番多いのがcの「校庭や体育館・教室など自分の学校施設を使用した活動である」で18.5%、2番目がaの「地域での活動に参加しやすいよう、指導者や活動内容の情報が分かりやすく提供されている」が13.8%、3番目がgで「活動でトラブルがあったときに相談できる人や場所がある」13.3%となっています。

質問7です。今後の部活動の継続的な活動のために、費用負担をするとしたら幾らぐらいが妥当ですかという質問で、一番がbの1か月当たり1000円以内、2番目が2001円から3000円、3番目が1001円から2000円となっています。

質問8です。お子さんが部活動に移動手段として自転車を利用することについて、どう思いますかということで、認めてほしいが86.6%となっています。

質問9については集計中です。ここは回答数が926件ございます。

次のページからが教員の方のアンケートの結果です。

質問1です。部活の顧問をしていますかという質問で、運動系部活の顧問をしているが59.9%、文科系の顧問をしているが26.6%、運動系と文化系の顧問を両方しているが3.8%、していないが9.7%です。

質問2です。顧問をしている部活動での御自身が競技者としての経験がありますかという質問です。経験があるが47.6%、経験がないが52.4%となっています。

質問3です。「顧問をしている部活動の技術的な指導は主に誰が行っていますか」ということで、aは「自分が行っている」48.5%、「自分以外の顧問教員が行っている」が17.6%、「部活動支援員が行っている」が33.9%となっています。

質問4です。「顧問業務について、どう考えていますか」、「負担感はあるが、やりがいを感じる」が44.6%、「負担感があり、あまりやりがいを感じない」が44.9%、「負担感はなく、やりがいを感じる」という方が6%、「負担感はないが、あまりやりがいも感じない」が4.5%となっています。

次のページで質問5です。負担感があると回答した理由を全て選んでくださいという質問です。一番多いのがbの「退勤時間が遅くなる」22.7%、2番目がcの「土日も休養できない」が19.7%、3番がaの「授業準備や生徒と関わる時間を確保できない」で15.8%となっています。

質問6です。質問4で、「『負担感はない』と回答した理由を全て選んでください」という質問で、一番多いのがdの「部活動を通じて生徒を成長させることができる」18.4%、2番目がhの「学校生活に部活動は必要と考えるから」が16.3%、3番目がaの「部活動指導は楽しいから」が13.3%でございます。

次のページです。質問7です。「大会や練習試合の引率業務は主に誰が行っていますか」という質問で「自分が行っている」が72%、bの「複数の顧問教員が交代で行っている」が11%、cの「自分以外の顧問教員が行っている」が6%、「部活動支援員が行っている」

は1%です。

質問8です。「大会や練習試合の引率業務で、特に課題があれば教えてください」、一番多いのがbの「休日に休めない」27.2%、2番目がcの「休日に引率業務を行っても平日に代休をとれない」、そして3番目がeの「交通費が十分支給されない」でした。

次が質問9です。「自分自身が技術指導のできる競技等の部活動の顧問となることについて、教えてください」、一番多いのがeの「部活動の顧問はしたくない」36.3%、2番目がaの「顧問として部活動指導業務に従事してよい」が19.9%、3番目がcの「平日だけであれば、顧問として部活動指導に従事してよい」18%となっています。

質問10です。「技術指導者が配置されている部活動の顧問となることについて、教えてください」ということで、選んでいただいたのが一番多いのがfの「部活支援員が配置されている部活動であっても、部活動の顧問はしたくない」が35.2%、2番目がcの「平日だけであれば、顧問として部活動指導に従事してもよい」が21.8%、3番目がeの「自分が指導者として関われないのであれば、部活動の顧問はしたくない」が12.4%となっております。

質問11です。これは世田谷区教育委員会が地域移行を検討していることを知っていますかという質問で「知っている」が91.9%です。

質問12です。「中学校の部活動が地域に移行された場合、教員の兼職兼業制度により、地域の指導者として関わりたいと考えますか」という質問で、aとbがそれぞれ条件が違いますけれども、関わりたいという回答で合計で37.7%となっています。c「関わりたくない」が61.6%です。

質問13です。「中学校の部活動が地域に移行される際に、期待する項目を全て選んでください」という質問で、一番多いのがaの「学校や顧問教員の負担軽減につながる」15.6%、2番目がbの「休日に大会や練習試合等の引率がなくなる」13.6%、3番目がcの「教員が大会等の運営や審判を担当する必要がなくなる」が12.9%となっております。

質問14です。「中学校の部活動が地域に移行される際に、懸念する項目をすべて選んでください」という質問で、一番多いのがaの「参加者の募集や地域活動を担う団体等との調整があり、教員の負担軽減につながらない」が25.3%、2番目がeの「地域に移行された活動であっても、活動中の事故等の相談が学校に寄せられる」が23.6%、3番目がdの「部活動が地域に移行された場合の事故やケガ等に関する補償の枠組みが定まっていない」が16.8%でした。

質問15です。部活動の活動場所が勤務校以外の施設を利用するときの自転車の利用についてですけれども、「各家庭の判断での自転車利用を認めた方がよい」が64.8%となっています。

質問16については、思っていることを書いてくださいという自由記載で集計中でございます。回答数が126件ございました。

すみません、長くなりましたけれども、アンケートについては以上でございます。よろしく申し上げます。

○委員長 ありがとうございます。今、委員の皆様、これを見たばかりですので、お考えいただく時間や資料をもう少し読んで、ここら辺はこうなのではないか、ああなのではないかという御意見があるかと思しますので、少し資料を熟読する時間を取りたいと思っておりますが、その間に皆さんのほうで御意見いただく内容を考えていただく。とりわけ、今日何か全体として方向づけられることができるわけではございませんので、まず、この資料から御感想ですとか、こういったところはこういうふうの問題になるのではないか、あるいはこういう解決策があるのではないかというところで、幾つかブレインストーミングのように出していただいて、今後そこに関わって政策をどういうふうに打っていくかというところの具体が次回以降になるかと思っておりますけれども、まずは先生方、あるいは保護者や生徒たちがこんな状況だということですので、ちょっとだけお時間をいただいてよろしいですか。どの立場からでもいいと思しますので、御意見を出していただければいいかなと思っておりますので、お時間を取りたいと思します。

さて、では今そろそろ四、五分たちましたので、御意見をいただけますでしょうか。どの点からでも構いませんし、御感想でも構いません。どなたか口火を切っていただければありがたいんですけれども、いかがでしょうか。

○委員 校長先生にお伺いしたいんですけれども、今、中学校の先生の年齢層は結構若手が多いのでしょうかという質問です。

○委員 本校の教員でいいますと若手が多いです。特に30代の半ば、やや後半ぐらいが多いのかなと。ただ、他校に比べると比較的バランスの取れているほうかなと思っております。

○委員 都の採用時の採用人数からいくと、全都的に40代が少ないんです。それから、再任用制度がどんどん延長している関係で、ベテランと呼ばれる50代後半から60代と20代から30代中盤ぐらいまでの教員が恐らく世田谷は多いかなと思します。

○委員長 何か質問の意図が多分あったかと思うんですけれども。

○委員 教員のアンケート結果を見て、意外と負担感を感じているなど思っていて、斜め読みで見ると、子育てがあつたりとかという部分があつたので、多分今の現状でいくと、比較的若い教員層が多くて、やり繰りしていらっしゃるんじゃないのかなというのは推測をしたので、確認をさせていただきました。

○委員長 お二人の校長先生にやり繰りも含めて少し現状をお伝えいただけるとありがたいんですけども。

○委員 本校では、顧問を複数制にしています。1人だけにすると、やはり負担感というんですか、責任の部分もそうですし、指導の問題についてもそうですし、偏ってしまいますので、複数にしています。ただ、やはりそれぞれがお互いに部分をきちんと分けてとか、曜日分けてとかいうことは、それぞれが遠慮してなのか、できていないところもあるのかなと思います。それから、一応勤務時間外の部分も含んでいきますので、こちらからのお願いということでやってはいますけれども、これはもうこちらのアンケートの感想になってしまうんですけども、教員がこれだけ負担に思っているのかと大変意外でした。もちろん、負担に感じている教員がいるということは重々承知はしているところですけども、あまりにも多いのでちょっとびっくりしたところです。

もちろん、回答率がちょっと低いということで、本校でも私のほうから促したんですけども、誰が回答した、していないというのは分からないものですから何とも言えませんし、回答がもしかしたら偏ったという言い方はおかしいですけども、部活に否定的、負担を感じていると教員が答えているならば分かるんですけども、でもあまりにも多いことにびっくりしました。

全体的に見て、保護者はやはり学校に期待を寄せているのだなというところと、子どもは本来の部活動の意義について追求したい。だから、何が何でも競技力の向上とか能力の向上ではなくて、まずは楽しみたいということを求めていますし、でも、その一方、競技力の向上を求めている子もいるんです。ただ、やはり週2日休みにしてほしいということを見ると、楽しみながら違うこともやってみたいとか、少し休みたいという子がいて、保護者、子どもと教員のかけ離れた意識がちょっとびっくりしました。

以上、感想ですけども。

○委員長 ありがとうございます。

○委員 50中盤から再任用の先生方も部活動はみんな持っているんですけども、子育ても終わり、これまで若い頃からずっと携わってきた部活動なので、ベテランのほうがあま

り負担感を感じていない状況で、やるのが当たり前という雰囲気です。ちょうど層の薄い40代は、学校の基幹要員でもあるので、ただでさえ仕事量が膨大なところ、やはり部活の顧問となると負担感というふうにもしかしたら回答しているのかなと。

それから、20代の教員は、大分部活に関する価値観が変わってきていて、かなり多様です。ただ一つ言えるのは、手当を期待して自分のお小遣い、ちょっと語弊があるかもしれないんですけども、お小遣いで自由に使えるお金、給料プラスアルファという金銭面の期待みたいなことはほとんどの教員が持っていると思っています。

○委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

○委員 では、私のほうで感想めいている驚きの部分について。生徒さんのは、こんなものかなと思いますけれども、まず保護者のほうからのもので、子どもが部活以外、塾以外で38.3%、一体これは何の習い事をしているのかな、非常に多い割合だなとちょっと驚いています。これは逆に子どもの負担になっているのではないかなと思います。

あと、これも事前に費用のほうは、多分1000円、2000円というよりもっと高いだろうなと思ったので、やはり1万円、2万円、3万円とか刻んで聞いてもよかったかなと。子どもに対してどれぐらいお金を使っているのか、ちょっと知りたかったなというところもあります。

どんどん思ったことだけ言わせていただきますね。先生方のアンケートも率直なのかなということですがけれども、回答率が低い部分というのは、部活の顧問をしていない先生は回答しなかったのかなと思うと、そんなこともないですかね。ほとんどの方が顧問をやられているのか、もう私には関係ないかなということでもちょっと低くなったのかなという印象も持ったんですけれども、違っていれば、また教えていただければと思います。

やはり負担感があるけれども、やりがいを感じる、感じないがほぼ同数というのもちょっと驚きです。この結果、なかなか生徒に対して公表しにくい資料になったのではないかなと。うちの顧問はやりがいは感じていないのだろうかと思ってしまわなければいいかなとか、あと、保護者からの執拗な理不尽なクレームが来たりとかということも負担に感じているということですがけれども、それだけボランティアでやっているようなところで、せめて保護者からお褒めの言葉でもいただければ、またやりがいも違うのだろうかけれども、こういうことがあればやりがいもなくなるだろうなと思っております。

それから、負担感はないと回答した方の中で「学校生活に部活動は必要と考えるから」というのは、これは負担というより、すごく義務感というか、やらなきゃみたいな正義感

というか、そういう先生方もいらっしゃるんだなと私は思いました。

あと、自分が技術指導できるのに部活動の顧問はしたくないというのが非常に高かったというのが、教えることが恐らくできるのに、それでも部活の顧問をやりたくないという人が非常に多いというのも、あれっど。教えられないからやりたくないという負担感なのかなと思ったら、そこがどうしてなんだろうかと疑問に思ったところです。

私、率直にこのアンケートを見て思ったことですが、この中で何かそこはこうだよみたいなのがあれば教えていただければと思います。

○委員長 ありがとうございます。まず先に、このデータをどこまで出すのかというところの確認を取らないといけないと思っはいるんですけれども、もちろん隠す必要はないとは思いますが、今、先生方のところで委員から御意見いただきました。先生方がかなり負担感を感じている、これはダイレクトにネット上に出ていくということの影響みたいなものは、どこまで考慮するかというのは、それはよしとするか、いや、ちょっと待って、ここは少しちゅうちょしましょうかというところで、あまり情報をコントロールしてもどうしようもないところだとは思いますが、率直に出すか出さないか、ここら辺、どうでしょうか。

○委員 データについては、まずア、イ、ウみたいに選択しているものについては、隠すべきではないと思っています。負担を感じて、やりがいを感じないみたいものについても、例えば別の観点なんですけれども、今いろんなところで働き方改革と言われていまして、ほかの自治体なんかで働き方改革のアンケートを取った際に、教員の仕事にやりがいを感じますかとか、そういったものについて取っているものもあって公表されていますので、あまりそこは気にしなくていいのかなと思っています。

○委員長 ありがとうございます。幾つか今、論点が出されていたかと思いますが、どうですか。今、委員から出されている、どういう層が回答しているかというところについては分からないというところでもいいですかね。この負担感を感じているというところ、今のところ追いかけれられないというところですね。フォームズでやっているのだから分からないところですね。ちょっと分からないところもたくさんあるかなというところがございますが、一旦これはいいですか。ほかに何か御意見みたいなものはありますか。

○委員 私も先生が半分以下の回答というのが一番気になったので、これはもう詮索してもしようがないという部分かとは思いますが、あと全体を見ての感想といいますか、生徒の方もそうなんです、教員の方も2つに分かれているのかなと。生徒も、ゆる

部活という言い方がいいのかはあれですけども、そういうのと競技力という部分、先生のほうも部活動命というか、がんがんとそれほどでもというので2つに分かれてしまっている。

あと、保護者の方も含めて、どういう活動をしているのか、情報提供をちゃんとしてほしいというがあるので、要は情報提供をちゃんとして、いろんな選択肢があって、生徒にもそうですし、先生も例えば、ある程度緩い競技力向上というような形でなければ、負担感なく顧問に従事していただけるとか、いろんなルートがいっぱいあったほうが生徒もそうだし、先生も少しでも負担感といたしますか、あと自分が行きたい部活動とか活動的に参加できるのかなというところは感じました。私は以上です。

○委員長 ありがとうございます。今、非常に重要な視点が出てきたかなと思ってはいるんですけども、ある種緩めの部活でいくのか、あるいは競技力を一つ目指してトップ層を開拓していくのかというところが、全然違う指導者が必要となってくるだろう、あるいは体制が違ってくるだろうというところなんですけれども、ここら辺はどうですか。全部を満たしていくというのは非常に難しいかなという気はしますが。御意見はいかがですか。

○委員 今、私たちがやっています東深沢の体力向上部が今お話が出ているゆる部活に当たると思います。ここ最近、ゆる部活というのが人気があって、いろんな種目を生徒が楽しむという形です。もともと東深沢中学校の部活というのは10ぐらいなのです。我々総合型でやっていますのがそれ以外に24あるんです。これはコラボを今してまして、中学校の部活にないバドミントンですとか、太極拳ですとか、空手ですとか、ボッチャですとか、そういったものを作って多種目を生徒たちが楽しんでもらうという目的でやっているんです。

ここの生徒のアンケートの中にも出ています、先ほど各先生方からも出ました競技力向上と多種目を楽しむという2つの方向があると思いますので、世田谷区として、ここのP5のほうにやってみたい部活というのが先ほどありましたね。こういったものをいろいろ、専門の人からダンスを学ぶ、弓道を学ぶですとか、ラクロスも人気がありますから、ラクロスをやるですとか、そういう受皿を専門的に学ぶと生徒からのニーズをかなえるのではないのかと思っております。

もう一つ、費用の負担というところで、7000円以上、1万円以上というところがすごく多かったのと、あとは保護者として負担というところが3000円以下が60数%なのです。このギャップがすごくあるんですけども、最近は一—最近ってここ10年以上前から、専門

のサッカークラブですとか、クラブチームがどんどん増えておりますから、学校のサッカー部に入るとのことより、クラブチームのサッカーに入ってしまう子が多分多いと思うんですよ。

そうすると、学校の部活には入らず、サッカークラブに入る。野球も多分同じだと思いますし、スイミングもスイミングクラブに入りますから、専門の指導者から高い指導を受けてやる。そうすると、費用が多分7000円ですとか1万円というふうになると思うんです。そこで多分ギャップが生まれると思いますので、この私たちが今やっている地域へ移行するときに、ニーズの中で専門性というのがあると思うのです。そうすると、1000円ですとか2000円という金額ではなく、そこに学校の先生が専門にやっていないけれども、今、顧問をやっているイメージがあるのではないのかなと。そこを地域に移行することによって、専門の人が教えるということが打ち出せるといいのかなと思っております。

○委員長 ありがとうございます。貴重な御意見だったと思いますが、今、大きく分けて2つの話があるかなと。まさに、ゆる部活と競技力という一つの軸、もう一つは、それに関わって費用をある一定の高いものを取りに行くのか、安い1000円、2000円ぐらいの範囲のところで収めていくのかということがかかなり交錯するかなという気はしておりましたが、ここら辺に関わりましていかがですか。

○委員 まず指向、どういう方向性で部活動の地域移行を考えていくかというところで、もちろん今回の部活動の地域移行の議論は、教員の働き方改革というところが表に出てきて議論が進んでいるかと思えます。それと同時に、これまでの日本の学校スポーツのシステムの限界というものも指摘をされてきていました。それは、これだけ子どもたちの好みが多様化してくると、その受皿として学校の部活動で様々な種目を設置することが難しい。専門の指導者が学校にいないですとか、団体種目については、その活動が継続できない。部員が少ないとか、そういった議論がされてきたのかなと承知しております。

その中で生徒たちのアンケートを見ると、やはり多種目・多志向というのがキーワードになるかなと思います。メディアの影響もあって、バスケットが活躍するとバスケやりたいなという子が出てきたり、せんだってもロサンゼルスオリンピックの追加種目が発表されましたけれども、ラクロスやクリケットといったものがメディアを通して流れると、そういう種目もやりたいなという興味関心が高まるのかなと思っています。

そういった意味では、多種目ということと専門的にやりたいというところから、気軽に取り組んでみたいというような多志向といった流れに多分子どもたちの方向性というのは

向かうのかなど。これにどこまで対応していくのか、どう応えていくのかということは議論をしていかないといけないテーマかなと考えております。

また、費用のところでも、今、議論がなされましたけれども、経済産業省の未来の部活動でフィージビリティスタディというのが行われています。独立したビジネスとして、事業として部活動指導といったものを独立採算でやっていこうとすればするほど、受益者に求める費用というのは月1万円というのが相場として未来の部活のワーキングから出てきているかと思うんですね。恐らくこのデータを見ましても、部活動以外の外の習い事、クラブで1万円以上の支出をしているという親が多いんですけども、多分これくらい払わないと民間はやっていけないので、親は仕方なく1万円以上払っているのか、望んで払っているのか別なんですけれども、これが補助金を使わないで独立してやるときの相場なんだろうなど。

一方、部活動に支払えるお金というところでは、2000円、3000円、そこに大きな谷間があるかと思うんですけども、それは学校の教育サービスの一環として捉えているという親の認識も色濃く反映しているのかなと思っています。前回、受益者負担の話をしましたけれども、この7000円のギャップをどうやって埋めていくのか。民間に行くんだったら1万円支払わないと独立採算でできない。でも、学校だと3000円ぐらいしか払えない。この7000円のギャップを埋めていかないと、なかなかサステナブルな部活動移行の着地点に行かないのではないかなというふうにも考えているところです。この辺についても議論も必要かなと思っています。

あと、教員のアンケートについては、今回の移行に伴う負担軽減の期待というのが色濃く出ているのかなと思います。3者のアンケートを見ましても、我々がこの検討委員会を進めていく中で、いわゆるゴールといいますか、望ましい姿ってこうだよねというのが明確にまだ手探り状態であると同時に、現場の教員や保護者や子どもたちに対しても、まだ情報が不足しているかな。まだそういったところのデザインが描けていないので、こういったアンケートになるのかなと私のほうでは見させていただいていました。

多項目・多志向ということをどこまで対応していくのかということ、また費用のこと、そういったところについては、本検討委員会においても引き続き議論が必要ではないかなと感じた次第でございます。

○委員長 ありがとうございます。まとめていただいた御意見をいただきました。多項目・多志向というところと費用、その在り方によっては、ゆる部活なのか、競技系のものなの

かという幾つかの対立軸が出てくるかなと思っております。

○委員 子どもたちの興味関心は本当に様々ですし、その学校にその部活があるかないかということで取り組めるか、取り組めないかということになるのはちょっとかわいそうだなと思っています。

金銭的な御家庭での負担というのは、1万円払える御家庭と払えない御家庭がある。払っているだけではなくて、払えるから行っているのであって、ここに残念ながら払えないから諦めている子どもたちがいるんだろうというところは考えなくてはいけないところだと思うので、金銭的な負担がないような活動がちゃんとできるように、子どもたちの夢をかなえさせてあげられるような方向性を見ていかないといけないのではないかと思います。

○委員長 貴重な御意見ありがとうございます。まさに部活で育った世代が親世代ですので、この御理解をいただくのは相当時間がかかるだろうと。

○委員 今の発言に関連して1点、見て気になったのがあるんですけども、生徒のアンケートの3ページの質問6と、実は保護者アンケートの質問6というのが同じ項目を聞いているんですね。生徒のほうは、例えばbの平日のうち週2日以上休みで負担がかかり過ぎないとか、気軽に参加できるような楽しむ部活動が欲しいというのが15%とか14.7%と高いんですけども、一方、親のほうを見ますと、そこが実は低いんです。一方で、ほかのところが高くなっていて、まさに子どもと親のギャップがあって、これから議論を進めるのにすごく難しいところがありながらも、子どもの意見を聞いていくと、もう少し自由度の高い、あまり大会、大会言わなくてもいいのかなというのが一つの道しるべになるのかなという感想を持ちました。

もう一つです。先生のほうで言うと、いわゆる子どもの活動の場所を確保するという意味では、総合型スポーツクラブの方ですとか、地域のいろんなイベントとかでお願いできると思うんですけども、大会となった瞬間に、結局、何か先生が関わるのかということになると、また、そこのところで行き詰まっちゃうのかなというような感想を持ったところなんですけれども、そのあたりを今後また皆さんにお知恵を借りながら、世田谷らしいものを出していければいいのかなという感想を持ちました。

○委員長 ありがとうございます。子どもと親の認識のずれ、あるいは世代間のずれと言ってもいいかもしれませんが、ここがかなりシビアに出てくるかもしれませんね。ですから、委員がおっしゃられた大会の運営をどうするかというところですね。

ほかにはいかがですか。あともう一、二個意見を言って、次の話題に行きたいと思います。今日は何か形にするというよりはいろいろ意見が、今、大分いろんな視点ができました。受益者の話も出てきましたし、どこまで補償するかという種目の広がりのお話も出てきましたし、世代間というんですか、親と子ども、そして先生、それぞれの立ち位置の違いみたいなところ、そして内容としては競技を目指すのか緩くいくのかというところ、ここら辺の対立の軸をどういうふうに関後していくのが次のところの政策を打っていく一つの起爆剤になるというか、きっかけになるかなと思っております。

よろしいですか。ちょうど30分ほど御議論いただきましたので、一旦この資料についてはここで終了させていただいて、次の資料に行ってもよろしいですかね。

では、来年度以降の件につきましてお願いします。

○事務局 では、資料2を御覧ください。せんだって委員長からもオーダーをいただいたこともございまして、令和5年度のトライアル事業についての検証を対比したような表をお作りしてお出ししています。これは現在やっているものですが、御覧いただいたように、世田谷区スポーツ振興財団のソフトテニス部、それから陸上競技部の合同部活動、せたがや文化財団の演劇部（合同部活動）、それから総合型でやっていただいている体力向上部ということで、それぞれの形態に丸をつけたものです。

今日はお出しができない、まだ不確定要素が大きいので、前日も口頭で少し御説明をさせていただいたんですけども、ここに加えて、6年度で幾つか用意をしているものと、ここで5年度で検証していない部分について、新しくやっていけないかということで、今、企画をしております。

少し口頭で申し上げますと、例えばスポーツ振興財団では、今、陸上競技部をやっていますが、これについては教員の方が指導を行っております。下から3つ目の指導者というところで、教員の方がやっていただいている、熱意のある先生が複数の部活動のいろんな競技の生徒さんに対して指導していただいている、生徒さんからは大変好評なんです。ただ、やはり教員の方にやっていただいているために負担感が非常に大きくなってしまっています。ここについては、6年度に教員の兼職兼業を試すことができないかということで、今どうやったらできるかというところを少し考え始めています。

今、御覧いただいている表の中でも、一番下の責任というところで、今年度は学校の管理下で全て行っているんですけども、そういったところを教員が兼職兼業になる場合には管理外にできるかどうかですとか、新しい部活動の中で、前回、委員から御紹介いただ

いていますけれども、弓道部の合同練習会ができないかということで、少し調整を始めていただいています、弓道部のほうは外部の方が教えるということになりますので、実現するかどうかもまだ決まっていないうですけれども、学校管理外という形でできないかといったようなことを準備しております。

違うところというのは、そんな感じです。会場等については、今回も大分いろんな形を行って、ちょっと丸が抜けちゃっているところもありますけれども、ごめんなさい、資料が陸上競技部は学校外の施設に本当は丸がついていなければいけないところです。演劇部の合同部活動も学校外の施設に本来は丸がついているべきところです。

一方で、来年度、今、準備をしているスポーツ振興財団の水泳部の合同練習会については、中学校にある温水プールを利用して合同練習会ができないかという企画になっておりますので、その学校の水泳部だけではなくて、ほかの学校からも参加していただくということで、ここの施設のところに水泳部については他の中学校に行くというのも出てくるような予定しております。

ということで、全てではないんですけれども、今まで検証できていないところを少しずつ試せるような形を、現在、少し準備を進めているところでございます。御説明は以上です。

○委員長 皆さんのほうには資料はこれ1枚だけですね。

○事務局 はい。

○委員長 水泳と弓道が来年度予定されているかと思っておりますので、少し委員から補足をいただいて、ごめんなさい、急に振って申し訳ないんですけれども。

○委員 弓道につきましては、賛助会員の弓道連盟にお願いしまして、学校については、活動としては平日しかできない。土日が詰まっているもので、平日ということで幾つかの学校ということで集まっていただくことを考えています。先ほど移動の話も出ていましたけれども、平日の移動もありますので、あまりにも遠い学校からはちょっと厳しいのかなというところはあるんですが、幾つかの学校で競い合うというような感じで、形としてはせたがや文化財団さんがやっていたいただいているような形に近いのかなとは思っております。

それから、水泳につきましては、既存の学校にある温水プールを活用してということで、そちらの校長先生とも今調整中なんです、ぜひほかの近くの学校からも参加いただいたほうがいいというような形で、今までも合同で練習したような形もあるということなので、

そういった形で合同の練習会ということではできないかということでは今調整段階ですけれども、話をさせていただいております。

○委員 ちなみに、水泳の指導はどなたがやるんですか。

○委員 水泳は水泳連盟です。外部の方。ただ、今、部活動支援員として実際にそちらの学校で指導している方という形で、生徒さんも顔見知りという形をお願いしたいと思っております。

○委員長 ありがとうございます。懸案となっている自転車もオーケーですか。

○事務局 自転車につきましては、今回、合同部活動で活動の途中から一応試行させていただいておりますので、今、御紹介したものについても、弓道のほうは学校外の活動ですので可になるのではないかと考えています。水泳のほうはまだ協議をしていないので、校長先生のほうで許可をされればという形になりますので、これからの議論になります。

○委員 自転車の利用なのですけれども、今、単独の学校の校長先生の判断とか、ほかの校長先生たちは知らないとか、あの学校はいいよねと子どもの声が漏れ聞こえてきたり、保護者も思っていたりするのではないかと、それで今度の中学校長会の役員会で、たたき台をつくってコンセンサスを取ろうではないかという動きを校長会主体でやって行こうと考えています。例えば、世田谷区立中学校校長会として、複数の学校による合同部活動等に所属する生徒が活動場所に集まって練習する場合、自転車による生徒の移動の要件について以下のように提案し、これを教育委員会にお出しする。

条件としては、例えば希望者のみで、保護者が承諾していることとか、保険に入っているとか、自転車の整備と安全について家庭で指導するとか、ヘルメットの着用は努力義務だよとか、交通ルールと駐輪場所を守りなさいとか、これからのんですけれども、そんなことを役員会でまず議論して、それを校長会でコンセンサスを取った上で教育委員会の担当課長、部長にお出しして、全体でコンセンサスを取りましょうという動きをしたいと思いますので、一応御承知おき願いたいと思います。校長会で全ての学校が了解する、判断は各校の校長ですけれども、そのような動きをしたいと思いますので、何かありましたら、また校長会までお話しください。

○委員 私から来年度以降の質問になるんですけれども、我々が考えているのは、やはり中学校という学校単位ということが一つ。あとは同一年齢、同カテゴリーということが一つ。その分け方で地域移行のことを進めているかと思うんですけれども、地域クラブ活動になった場合には、同じ中学校の生徒以外の生徒と触れ合うこともありますし、多世代と

ということも考えられるんですね。そういった場合に新たに中学生用の練習とか団体、地域のクラブをつくるというよりも、既存の例えば大人が活動しているようなところに中学生も混じって入ることで、それを部活動というのも出てくるのではないかなと。

例えば、ドイツなんかはそういったモデルで、成人、シニアとジュニアと一緒に活動しながら、大会のときは、それぞれカテゴリーを分けますけれども、既存の箱の中に中学生が入ってきて一緒に活動するというようなことも今後想定されるのかなと。そういったモデルの検証も必要なのではないかなと思った次第です。

○委員長 ありがとうございます。今のいわゆる既存の年齢層の違う子たちのところに入るというアイデアはいかがですか。

○事務局 地域でそういった活動をされていらっしゃる場所もございます。中学生だけではなくて、小学生とか高校生とかやられているところとか、世田谷には幸いそういった団体も多いので、そういったところへのつなぎですとか、そういうところも少し具体的に考えていきたいと思えます。総合型も、やはり多世代の活動をしていますので、そういったところも関連があるかなと思えます。ありがとうございます。

○委員 私は大学に勤めているんですけども、大学としても、部活動の地域移行にどういふふうに対応できるかなとか、どんな貢献が大学としてできるかなと考えたときに、単なる中学校に指導者派遣だけではなくて、大学の部活動に中学生に来てもらって一緒にやろうぜというようなスタンスも、協力体制としてはできるのではないかなと。そうすると、私たちが新たなものをつくらなくても、今ある部活動に来て一緒にやろうというのが、中学生にとっては部活動の一環という考え方で活動するというのもありかなとも思ったので、そういった多世代での仕組みというのも、可能性としてあるかなと思いました。

○委員長 ありがとうございます。中学生が入ってくるという可能性はどうですか。

○委員 実際に日体大の空手部と連携をして、総合型の私どもの空手が日体大で過去に練習をしたこともあります。今、実際に総合型の中でチアリーディングというのがあるんですけども、日体大のチアリーディング部の学生が総合型に入って子どもたちを教えている。両方、委員が言われたような内容が今後の地域部活だと思っております。

○委員 私たちのところは、小中学生を中心に地域で文化的活動を行っていますので、中学生が高校生、大学生のところに出向いていくというよりも、小学校時代からやっていることを中学になっても続けていって、高校生になっても小さい子たちを教えるために来てくれたりとか、それから高校では自分たちの学校の部活に入っていて、大学生になって地

元の私たちの活動に舞い戻ってきて指導してくれるとか、そういう縦のつながりができていますので、皆さんがイメージしていらっしゃることはちょっと違うかもしれませんが、多世代の交流というのはされていますので、そういうことが盛んになっていく可能性はあると思います。

○委員長 ありがとうございます。ほかに、次年度以降、こういう可能性はあるのかとか、あと、こういうところがちょっと懸念されるんだけど……。

○委員 東深沢のスポーツクラブ、私もスポーツ推進課長をやっていたので、東深沢、用賀、尾山台、城山と行かせていただいておりますけれども、記憶がちょっと曖昧になってしまっていて、用賀はたしか文化系のものもいっぱいあったりしたんですけれども、東深沢は文化系のものはあるんですけど。

○委員 半分ぐらいあります。

○委員 そうですか。そうすると、例えば今回は体力向上部ですけれども、文化系のほうの何かというのはお考えはできないんですか。

○委員 校長先生からは茶道ですとか、茶道は今うちのクラブではないんですけれども、コミュニティのほうにはあったりですとか、そういった形で今後、文化系もコラボしていこうというお話はあります。

○委員 ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

○委員 来年度、トライアル事業をまたということでもいいとは思いますが、この間、今日のこのアンケートも含めて様々な課題が出てきていて、トライ事業をやるに当たって、例えばこの事業は、この課題をどう見ていくのかという整理をしていったほうがいいのかなと思っています。例えば5年度であれば、経費については全て委託ということで、受益者負担が発生していないであったりとか、あるいは責任のところに行くと、学校管理下で行われている。これが例えば学校管理下が外れた場合にどうなっていくのかとか、あるいは大会の部分であったりとか、この視点で例えばこのトライアル事業を行っていくとか、そういうような仕方をしていったほうがいいのかなと思います。

○事務局 さっき御説明が足りなかったところもございましたが、今、5年度のトライアル事業については、まずアンケートを取らせていただいたり、経年的にアンケートを取ったり、ヒアリングをしたりということで、そろそろ中間点を過ぎたので、いろいろな御意見等もまとめていく方向に入っていこうと思っています。

さっきちょっと御説明が足りなかったところにつきましては、まず、学校管理下、管理外というところについては、やはりおっしゃったように、保険の関係ですとか責任の分岐点みたいところがなかなか難しい問題が多くて、そこは本当にしっかりと議論をしていかなければいけないと思っています。ですので、来年度、管理外でやるとしても、それはあくまでもやってみるという形で、まだ解決できない課題というのが多く残っていくのかなと思っています。

受益者負担のことにつきましては、申し上げ忘れましたが、弓道部でもし可能であれば受益者負担をやってみられないかという議論は今進めているところです。今年度のトライアルの課題の中で、一つは、さっき御説明した陸上競技部については、指導者等については課題がとでもあって、そこは来年度に少し改善をして、さらに同じ形ではなく、続けていけないかといったところも進めていくところです。次回の検討会までに少しヒアリング等を行ってまとめたものをお出しできるかと思っておりますので、またぜひそこも御意見をいただけたらと思います。ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。来年度、まだ5つぐらいのトライアル、ないしは6つぐらいあるかと思えますけれども、ある種緩い系と競技系と色分けするとすれば、例えば陸上は比較的技能を上げていくための競技の質を上げていく。それから、ソフトテニスもそうですかね。通常の部活をさらにバージョンアップしていく。水泳、弓道あたりは始まらないと分からないと思うんですけれども、どういう志向でいきますか。弓道あたりは初心者がみんな集まる感じですかね。

○委員 まず、弓道については、多分やったことがないお子さんのほうが多いと思うので、初心者向けの形になるのかなと思っています。それから、水泳ですけれども、こちらについては先ほど委員から誰が教えるのかという話がありましたが、ちょっと補足しますと、世田谷区水泳協会と大学の水泳部の協力とかも得てやりたいということで、既存の競技力向上というか、ただ、幾つかの学校が集まってということもありますので、やはり楽しくということで、今、陸上が幾つかの学校が集まることによって相乗効果ということもありますので、そういうことを目指していきたいと思っています。

それから、先ほど委員から今年の検証結果を踏まえてという話がありました。補足させていただきますと、まず陸上部につきましては、さっき事務局からもお話がありましたように、負担感の部分があるので、兼業兼職という形でできないかということで検討させていただきます。

それから、ソフトテニス部につきましては、現在、週4日のうち2日派遣という形になっておるんですが、その2日を3日に増やす。より負担感の軽減ということで今検討を進めております。

○委員長 ありがとうございます。7時50分も過ぎましたので、そろそろまとめに行きたいと思います。

○委員 緩い方針でいくのか、勝敗をある程度意識していくのかというのは、募集のときにそれをうたうのか、これは結構大きな問題かなと思います。現状、一つの部活動の中に勝ち負けにこだわる部員もいれば、いやいや、そんなやらなくてもいいんだという部員がいて、それも顧問としては結構それぞれの部活で課題なんですね。この地域移行の部活はこうだという目的を出していくべきなのか、それとも集まったメンバーで話していくべきなのか、最初から決めなくても個人的にはいいのかなという気もしています。

もう1点ですけれども、ソフトテニス部が外部コーチ派遣型で、陸上とか演劇は合同部活動型で、体力向上部は地域とのコラボだと思うのですけれども、例えば八王子市は世田谷区と同じように広いので、拠点校方式みたいなことをやっているんですね。そういうのはトライアルをしないのか。パターンがちょっと限られてきているので、もう少し違ったパターンでトライアルをしてみるといいのかなとちょっと思いました。

○委員長 貴重な御意見ありがとうございます。また検討していただいて。

○事務局 ありがとうございます。拠点校方式につきましては、どういうふうに行っているか少し調べたこともございます。世田谷も確かに広いので、一方で既に合同部活動を自主的にやられている部活も、人数の少ない部では実際にはあって、先生同士が交流のある学校同士ですとか、先生が異動されると、その関係ですとかで合同部活の組合せも変わるということも伺っています。

ですので、人数が比較的多くてやったりする部活とか、いろんな中学校に比較的たくさんある主流の部活動で部員の数が減ってきてしまうようなところに、今のお話で拠点校的な地域の一つですとか、有効な形かなとは思いますが。一方で、指導者をどうするのかというのはなかなか課題かもしれないなと思いますので、御意見を検討もしてみたいと思います。ありがとうございます。

○委員 指導者がいるところが拠点校になっているケースが多いんです。

○事務局 ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。ほかに皆さんからよろしいですか。

○委員 責任のところでは実は兼職兼業というお話があるんですけども、公務員は兼職兼業ができることになっていまして、部活動ではもう兼職兼業はいいよということになっているので、できる、できないで言えばできるんです。

実は1点ちょっと引っかかっているのが、学校の管理下、いわゆる教員として部活動を指導した場合には、あくまでも学校、公務員としての活動になるので、生徒がけがした場合には当然生徒のほうの保険は入っているんで、それは大丈夫なんですけれども、先生のほうのいわゆる責任のところ、兼職兼業になった瞬間に公務員でなくなってしまうので、国家賠償法の対象外となって、いわゆる民間人としての責任、個人が責任に問われるという形になってしまうんです。それは今、例えば東深沢の総合型スポーツクラブも、もしゆる部活のほうを、今は学校の管理下ですけども、自主運営していただくとすれば、それはもう総合クラブの責任になるんですけども、そのところは多分保護者の方も、スポーツクラブの活動だから、それはそうだよねとなると思うんです。

そこに学校の先生が仮に兼職兼業で指導していたときに、いやいや、先生が指導したのに学校の責任ではないってどういうことみたいな話になるという懸念があって、どういうふうにそこを整理していったらいいのかというところ。あと、指導する先生も、いや、兼職兼業でやりたいんですと言ったときに、そういうことまで御存じで、何かあったときに学校の責任ではない、公務員の責任ではなくなるんだよというところを御理解いただかなきゃいけないところがあって、その辺のところを整理しなきゃいけないのかなと思っております。

兼職兼業することによって先生方に手当というか、お金を出すことができるので、その部分では保障にはなるので、そっちのほうではできればやりたいなと思っているんですけども、お金の出し方についてもちょっと検討しなければいけないところがあるので、その点を今非常に苦慮しているというか、整理をして、それから走ろうかなと思っているところでございます。

○委員長 ありがとうございます。非常に重要な視点かと思っております。どこまで責任が及ぶのかというところと非常にリンクしてきますので。

それでは、時間が参りましたので、次第5でその他に移りたいと思いますが、皆さんのほうで何か確認しておくべきことや連絡事項等はございますでしょうか。あるいは最後の会議録のところ、誤字脱字等が何かございましたら、御意見をお願いします。

事務局、次回はどういうふうになりますか。

○事務局 できれば12月に開催させていただきたいと思います。12月は調整済みです。14日に11回目を開かせていただきます。その後について、今後、調整をお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○委員長 ほかにいかがですか。よろしいですか。

それでは、以上をもちまして第10回世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会を終了したいと思います。長時間ありがとうございました。お疲れさまでした。

午後8時00分閉会